

川崎市ぜん息医療費助成制度廃止の市議会議決を受けて

—川崎市長、川崎市議会、川崎市役所担当部署各位にお願いします。

川崎市ぜん息医療費助成制度の廃止が、6月29日市議会本会議で議決されました。パブリックコメントをはじめ、様々な形で示された多くの市民からの反対の声にも関わらず、合理的な説明のないまま、患者・制度利用者の苦悩やリスクを顧みず、何らの修正も振り返りもなく強行されたことに、憂慮の念を禁じ得ません。制度廃止とそれにまつわる経緯によって、市民にとっての災いを来すことの無いよう、議案成立後にもご配慮、ご尽力を賜りたく、以下お願いいたします。

1. 不幸な患者さんを生まぬよう、責任あるご対応をお願いします。

従前から指摘されているように、助成の打ち切りによって、治療の中断からコントロール不良、重症化を来し、不幸な転帰に至る患者さんの発生が懸念されます。そのようなことのないよう、十分な対策をお願いいたします。市政の目標を説明する文書の中でしばしば登場する、「誰ひとり取り残さない」との文言に相応しい万全のご対応をいただけるものと期待致します。

制度廃止に伴って(移行措置期間の後に)、助成が打ち切られることになる対象者については、通院の中断が起きていないか、健康状態の悪化が生じていないか、経済的な困難を来していないか、そのリスクは増していないか、などについて情報収集を行い、きめ細かなご対応をお願い致します。

2. 真に公平な社会・市政の実現を

「公平性」を市政の原理として重視する主張には大いに賛同致します。社会には様々な形で、本人の責任に帰すことのできない、そもそもの格差が存在し、成り行きのままでは次第に拡大してしまいます。それを少しでも縮めるように働きかけることこそが、本当の公平性であり、そこにこそ政治の大きな役割があるものと考えます。個性を尊重しながら、格差を減らして、真の意味で公平性の高い社会・川崎の実現に、党派を超えて努めてください。

3. 小児医療費助成制度の充実を

疾病の種類を問わず、「公平」に助成される制度である、小児医療費全般への助成制度の充実を進めてください。少なくとも、周辺自治体並みの、高校生相当世代まで、一部負担金なしに、受診できるなどの水準に、拡充することを求めます。

4. 政策決定に際し、市民の声、とりわけ当事者や専門家の意見を尊重して下さい。

市長のホームページには市政運営の基本姿勢の一番目に「対話と現場主義」が掲げられており、政策決定の過程で、市民や現場の意見を尊重するとの意味合いと理解されます。しかし今回の制度廃止の提案は、法案の作成や吟味の段階から、議論の段階、パブコメの扱い、議会での聴聞会開催への不同意など、すべてのプロセスにおいて、当事者や専門職の意見、多数の民意に対して、拒絶的な対応が感じられました。今後は、幅広い市民の声、とりわけ当事者や関係する専門家の意見に耳を傾け、それを尊重することを原則として確立してください。パブコメの扱いについても見直しを行い、民主的な手続きが、たてまえや単なる形式に終わることのないように、改善をして下さい。

2023年6月30日
川崎医療生活協同組合理事会
川崎医療生活協同組合労働組合